主体的に課題を解決する生徒の育成

~基礎的・基本的内容の定着に向けて~

(3年計画の1年次)

校長 髙 僑 健

1 研究主題について

令和3年度のアンケートより、本校の生徒は、「明るく素直で人懐っこく、授業には意欲的」である。反面、「すぐ諦め学習に対する努力が見られない、家庭学習が定着しない、考えて行動することが苦手、家庭環境が不安定」という面が見られる。そのため、目の前にある課題と向きあい、それを自ら解決していく能力が必要であると考え、上記の研究主題を設定した。これは、本校の教育目標の一つである「向上心にあふれ自ら学ぶ人間」に迫る視点でもある。その主題に迫るために、「気づく・つながる・創り出す」を意識した教育活動を全職員で展開していく。

今年度は、生徒の生活リズムや学習の取り組み方に気づくことで、生徒の実態に合わせて基礎的・基本的な知識及び技能を定着していく。授業では、発問や課題の研究をして、工夫・改善を計測的に実践することで、活用を図る学習に取り組ませたい。そうすることで、主体的に課題に取り組む自信をもたせ、生徒の学力向上及び教師の授業力向上を図っていく。

2 研究のねらい

各教科・領域の特性を生かしながら、授業における発問の仕方やICTを活用した課題提示など工夫し、生徒の学びに対する意欲を喚起させる。また、特別支援教育の視点も取り入れた授業を展開し、共通実践を進めていくことで、基礎・基本の定着に繋げていく。

3 研究仮説

各教科・学年において、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させ、盤石の基礎を築き、その知識を基に、活用を図る学習に取り組ませることで、主体的に課題に取り組む自信をもてると考えられる。

4 研究内容

- (1) ア 各教科・領域ごとに、導入における発問の工夫と基礎的・基本的内容の定着に向けて の工夫を行い、日々の授業実践を通して検証する。
 - イ 教科内での教員相互の授業参観(6月・7月・11月、全員参加)の際に、指導案検討や 授業研究を通して、指導力の向上に努める。また、教員相互の同僚性を高め、アの方法 についての検証を深める。
 - ウ 授業では、その日学習する課題や目標の可視化を全教員で進めていく。
- (2) 研究テーマに沿った内容のアンケートを生徒及び教員に行い、その結果を共有し実践に繋げていく。また、生徒の生活実態についても調べ、学習に向かう生活態度の形成につなげていく。
- (3) 一般研修では、授業において一人一台端末を活用していけるよう、それぞれの実践内容を発表し合い、スキルアップを図る。

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	研究内容	対象
4	4	校内研修についての共通理解	全体会
5	1 0	示範授業に向けての指導案検討	教科部会
5	2 7	校内研に関わるアンケート実施・集計①→一人一台端末を利用 生	
6	2	初任者研修「示範授業研修」(国・英・数・理・音・美・体・道)	数到如 众
0	Δ	◎校内研究テーマに向けての各教科の授業研究(授業参観・1回目)	教科部会
7	6	◎校内研究テーマに向けての各教科の授業研究(授業参観・2回目) 教科部会	
1 0	1 3	計画訪問・要請訪問に向けての指導案検討	
1 1	8	教育指導課・総合教育センター・こども支援センター中学校訪問	教科部会
1 1	8	◎校内研究テーマに向けての各教科の授業研究(授業参観・3回目)	教科部云
1 1	8	要請訪問〈研究授業支援〉 1学年 国語 竹内夏子教諭	全体会
1 1		総合教育センター 中村 美穂 主任指導主事	土件云
1 1	2 9	領域部会(今年度の研究成果と課題) 領域部会	
1 1	3 0	教科部会 (今年度の研究成果と課題) 教科部会	
1 2	5	校内研に関わるアンケート実施・集計②→一人一台端末を利用 生徒・教	
1	2 5	本年度の研究のまとめと次年度に向けて	全体会

(2) 一般研修

月	日	内容		
5	2 3	NRT分析		
8	1 0	一人一台端末の活用について	校内勉強会	

6 研究の成果

- (1) 各教科の授業参観を行った。示範授業や計画訪問を通して、指導案検討を複数回行うことで、教科への研究を深めることができた。
- (2) 授業や各学年における学習コンテストの実施など基礎・基本の定着に力を入れて取り組んだことで、12月のアンケートでは授業の理解に対する項目が向上した。
- (3) 授業で実践している一人一台端末の活用の勉強会では、教科だけではなく、朝自習や総合的な活動など、多岐に渡る実践例を報告しあい有意義な時間となった。授業参観のまとめや協議会でも、一人一台端末を活用することができた。

7 研究の課題

- (1) アンケートを通して、生徒の生活実態について調べたが、学習に向かう態度の形成に繋げていくための具体的な施策をさらに進めていく必要がある。
- (2) 同じ教科だけではなく、他の教科での学習の仕方を学び合うことで、生徒一人一人の実態 に合わせた学習が進められるよう、学年内での授業参観を進めていきたい。

(記入者 石屋 純子)